平成26年度「全国学力・学習状況調査」における
飛　幡 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

⑴ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

⑴ 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・数学A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・数学B】
・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

⑵ 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

飛　幡 中学校「平成26年度　全国学力・学習状況調査」の結果について

1．教科に関する調査結果の概要

① 学力調査（国語A・B、数学A・B）結果

・本校の結果

国語A	全国平均正答率を下回っている。
国語B	全国平均正答率を下回っている。
数学A	全国平均正答率を下回っている。
数学B	全国平均正答率を下回っている。

（資料）本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	数学A	数学B
平成２４年度	本市	73.5	61.1	58.6	43.8
	全国	75.1	63.3	62.1	49.3
平成２５年度	本市	74.7	65	60.3	38.2
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5
平成２６年度	本市	77.2	47.6	62.4	54.4
	全国	79.4	51	67.4	59.8

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を下回っていた。 ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に課題があり、調べる機会を設け、調べた語句を身に付ける活動を行う必要がある。
	よくできた問題	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題は正答率が高い。
	努力が必要な問題	辞書を活用して、語句の意味を適切に書く問題については、無解答率が高かった。

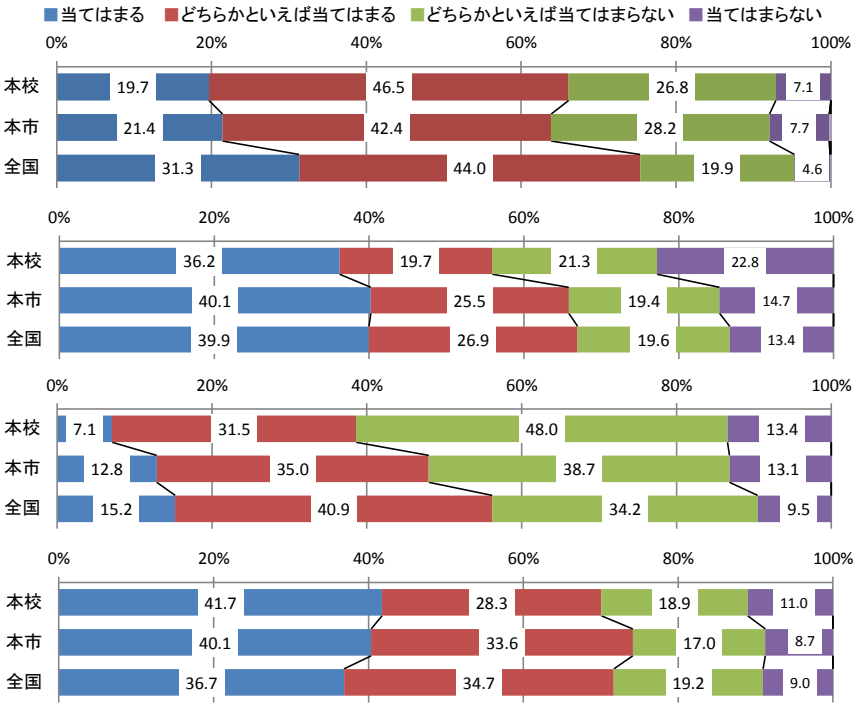
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を大きく下回っていた。 ・文章の内容について、根拠を明確にして、自分の考えを書く問題に課題がある。
	よくできた問題	文章に表れているものの見方について、自分の考えをもつ問題は、無解答率が低かった。
	努力が必要な問題	資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く問題は正答率が低かった。

数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を大きく下回っていた。 ・相対度数や確率を求める問題が特に無解答率が高く、正答率も低かったため、資料の活用が苦手なことがはっきりした。
	よくできた問題	正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて考える問題は正答率が高かった。
	努力が必要な問題	関数の意味を理解する問題は、正答率が低く、無解答率も高かった。

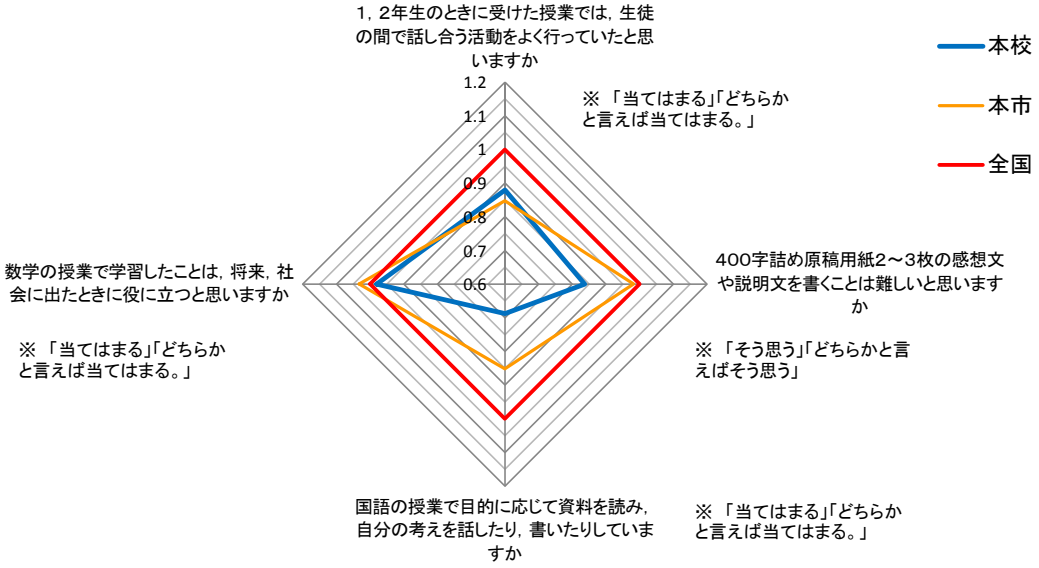
数学B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を下回っていた。 ・資料の活用について、事象の傾向を捉え、判断の理由や問題を解決する方法を説明する問題に課題がある。
	よくできた問題	日常的な事象を表した図を観察し、空間における位置に関する情報を適切に読み取る問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	図形の性質を，構想を立てて証明する問題は、正答率が低く、無解答率も高かった。

③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号	質問事項
43	1，2年生のときに受けた授業では，生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか
46	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか
55	国語の授業で目的に応じて資料を読み，自分の考えを話したり，書いたりしていますか
68	数学の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか



④ 本校と本市の対全国比（全国を1とする）



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

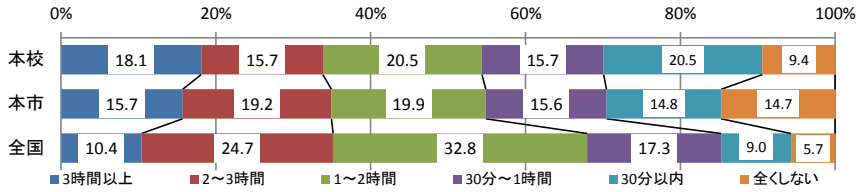
・各教科で学習したことは、将来、役に立つと思っている生徒は、全国平均とほぼ同じで、学校での学習の意義については十分な理解ができている。
・話合い活動は本市平均を上回っており、全校で話合いに取り組んでいる成果が出てきている。
・感想文や説明文を書くことに抵抗感を持っている生徒が増加する傾向にある。書くことに関しては、学力調査の結果からも、無解答率が高くなっており、国語科の授業を中心に、自分の考えを書いて整理してから説明させる活動や資料から適切な情報を得て、考えをまとめる活動、学校や学年行事の際にも感想文を書く活動を位置付け、書くことを積極的に取り入れる必要がある。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

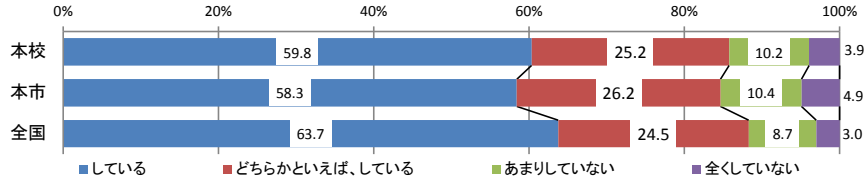
14

学校の授業時間以外に，普段（月～金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）



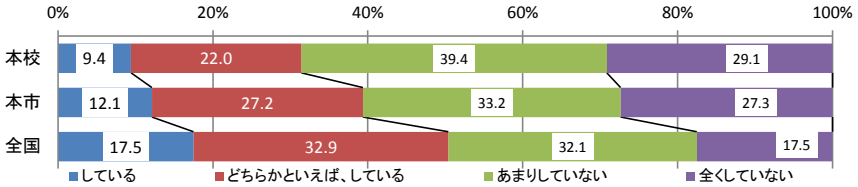
22

家で，学校の宿題をしていますか



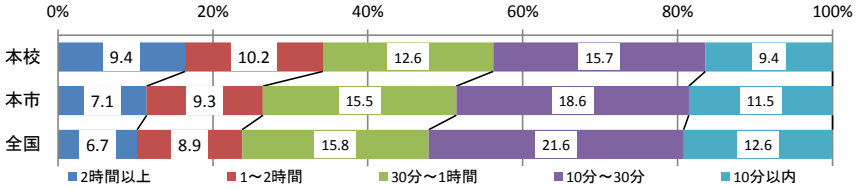
24

家で，学校の授業の復習をしていますか

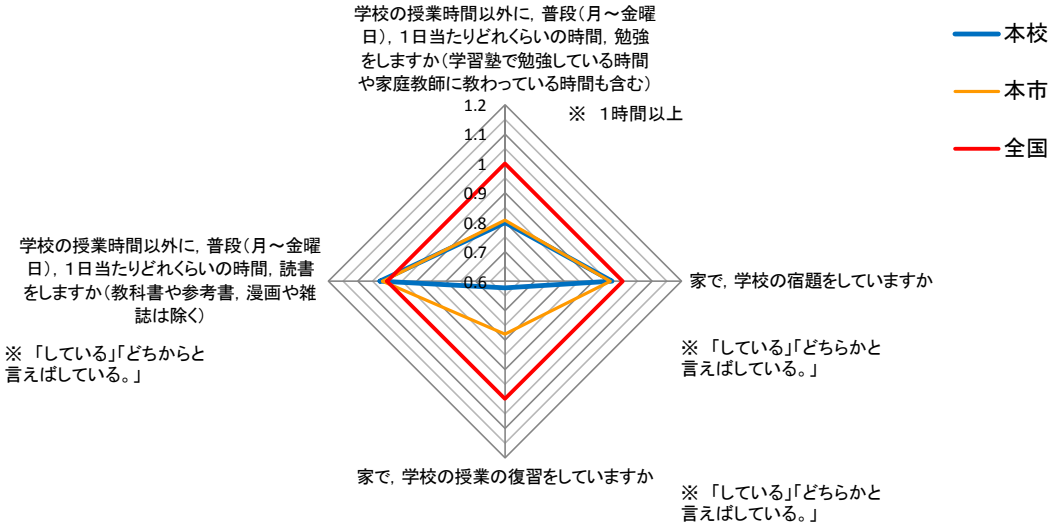


17

学校の授業時間以外に，普段（月～金曜日），１日当たりどれくらいの時間，読書をしますか（教科書や参考書，漫画や雑誌は除く）



② 本校と本市の対全国比（全国を1とする）

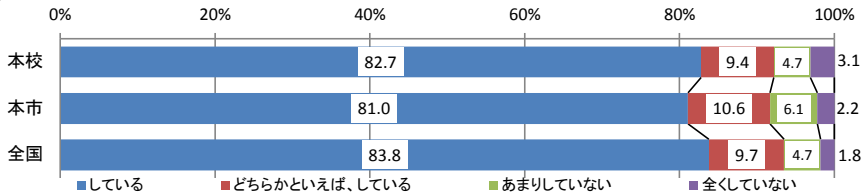


③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

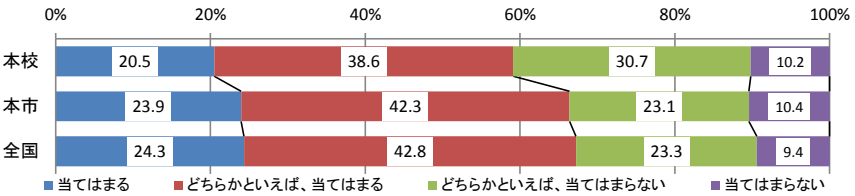
・学校の授業時間以外に、普段、読書をしている生徒の割合は全国平均を上回ってきており、図書室の整備や朝読書に取り組んでいる成果が出てきている。
・家で学校の宿題はしているが、学校の授業の復習までしている生徒の割合が少なく、課題が見られる。また、家庭学習の時間が全国平均と比べて少なく、特に1時間未満の生徒が多い。全校で学年ごとの家庭時間のめやすを示し、家庭学習の具体的な取組を指導する必要がある。

④ 生活習慣等に関する調査結果

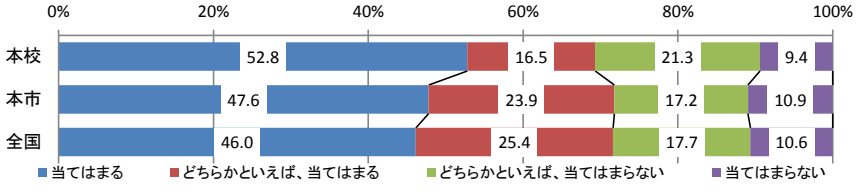
1
朝食を毎日食べていますか



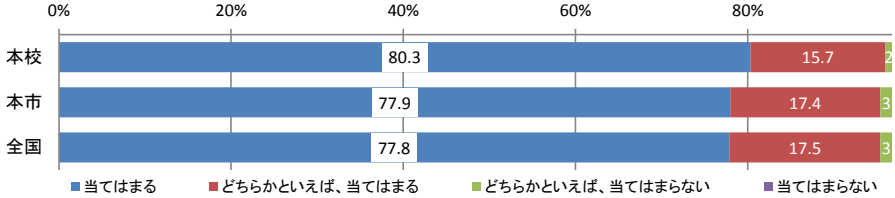
6
自分には，よいところがあると思いますか



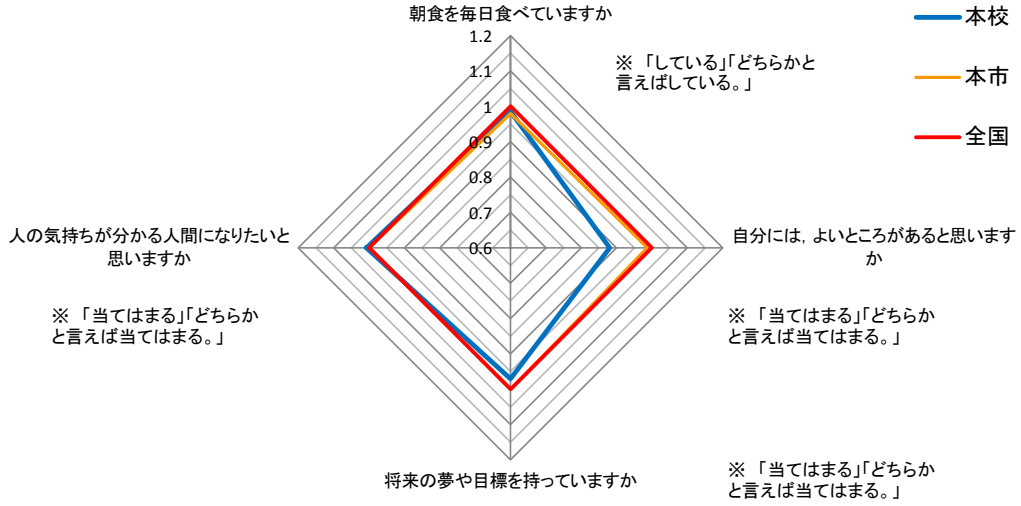
10
将来の夢や目標を持っていますか



36
人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか



⑤ 本校と本市の対全国比（全国を1とする）



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

※「◎」は現在取り組んでいること「○」は今後取り組むこと　「・」は事例

・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う生徒の割合も多く、人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒の割合も全国平均を上回っている。将来の夢や目標を持っている生徒の割合は、全国平均とほぼ同じであるが、自分には、よいところがあると思っている生徒の割合が少ない。
・各学年で発達段階に応じた進路学習を適切に行うことで、自己肯定感を持たせるとともに、夢や目標を実現させ、人の気持ちが分かり、人の役に立つ人間となるために具体的な進路計画を立てることで、行動に結び付けさせる必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

◎学力向上のための特設時間の実施
・期末考査前1週間から、全校一斉に基礎的な学習の時間を毎日50分間実施する。＜学力向上週間＞
・定期考査実施前に、全校一斉に基礎的な学習の時間を50分間実施する。＜学力向上タイム＞
・各学期3週間、国・数・英の朝自習強化期間として設定し、コンクールやテストで評価する。
・その際、小中連携サポーターにも活動の補助やプリントの印刷を依頼する。
◎ 過去問題・アシストシート、活用力を高めるワークの活用
・夏季や冬季の休業日に宿題として実施する。
◎ 「書く」ことの習慣化
・学校行事や学年行事では調べ活動を取り入れるとともに、振り返りカードや感想文を必ず書くようにする。
・西日本新聞「春秋」、朝日新聞「天声人語」を視写する。
○ 学力向上に関する職員研修の実施
・全教職員で、出題傾向から指導内容の検討をする研修会を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

◎ 宿題のスタンダード化（時間・学年別・教科別内容）
・学年ごとに家庭学習時間を設定し、「家庭学習のきまり」を確認する。
・冬休みや春休みの宿題に、過去問題やアシストシートを活用する。
・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用する。
・放課後等の時間帯を利用して、「子どもひまわり学習塾」や質問教室を実施する。
・家庭学習マイスター賞への応募を勧める。
・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用する。
◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
・学校，学年だより及び学校ホームページの充実を図る。